

V. 研究所図書館

1. 図書館活動

第1回市場化テストに引き続き、第2回市場化テストについても2012年度から3年間の実施期間でアジア経済研究所図書館が運営することとなった。まず、1年度目は第1回市場化業務の実施経験を踏まえて非市場化業務との連携を強化し、図書館サービスの質的向上と業務の効率化を図った。

利用者サービスにおいては、来館者数と利用冊数の減少が漸減しているが、他方、ウェブによる情報提供サービスであるデジタルアーカイブについては、2011年度比でアクセス数は6.7%増、ダウンロード数は199%増と順調に伸びている。

図書館間協力において特筆すべき点は、国立情報学研究所（NII）のオンライン総合目録データベースへの新規登録と図書館間相互貸借への多大な貢献であり、目録作成において全参加館1,355機関中新規登録数は第12位、累計登録数は第9位に位置し、また、他機関への貸出では全加盟館1,563機関中5位であった。

図書館の広報活動として実施している資料展示については、千代田区立図書館と東京大学駒場図書館においてそれぞれ約2ヵ月間開催し、研究所出版物や図書館所蔵資料のPRに努め好評を得た。

2. 資料収集

研究所図書館は、研究所創立以来、開発途上国の政府刊行物、雑誌・新聞、海外の大学・研究機関の調査報告書、統計資料など現地の一次資料に留意して収集を行ってきた。特に、海外の主要な研究機関、政府機関等と研究所図書館との間で行われている出版物等の資料交換制度は、商業ルートでは入手し難い出版物の収集において重要な役割を果たしている。2012年度末の資料交換先は1,025機関（表V-1）である。

開発途上国の刊行資料については、各国の書店や政府機関から直接購入しているもの及び海外研究員や海外出張者の協力により現地で直接収集しているものがある。2012年度に後者の方法により資料収集を行った国は、香港、台湾、タイ、ラオス、ミャンマー、インドネシア、マレーシア、シンガポール、フィリピン、インド、トルコ、チリ、ペルー、ケニア、ウガンダ、タンザニアの16カ国であった。

表V-1 資料交換の相手機関（2012年度末）

地域		国際機関	政府	図書館	研究機関	大学	銀行	企業	各種団体・その他	計
アジア		16	217	13	82	138	34	1	48	549
内訳	東アジア	0	48	6	23	35	6	0	3	121
	東南アジア	9	101	4	11	26	12	0	7	170

	南アジア	0	58	1	26	14	10	1	1	111
	中央アジア	0	5	0	0	0	5	0	0	10
	日本	7	5	2	22	63	1	0	37	137
中東・北アフリカ		2	37	2	9	14	29	0	4	97
ラ米		7	53	1	9	25	37	0	15	147
アフリカ		4	65	0	4	4	39	0	1	117
オセアニア		1	10	1	1	8	2	0	1	24
CIS・東欧		0	5	1	5	2	1	0	0	14
北米		12	2	1	0	19	1	0	0	35
西欧		21	0	1	11	8	1	0	0	42
小計		63	389	20	121	218	144	1	69	1,025

2012年度の一般資料及び統計資料の受入冊数、累計は表V-2のとおりである。

表 V-2 2012年度の資料の受入数及び蔵書数

資料種別	単位	2012年度受入	年度末統計
洋書(アジア・アフリカ諸語を含む)	冊	9,754	286,198
和書	冊	1,942	92,388
中国書	冊	993	47,709
朝鮮・韓国書	冊	449	23,766
製本雑誌	冊	1,996	75,991
統計資料	冊	3,911	112,864
合計	冊	19,045	638,916
新聞	タイトル	(新規継続) 3	475
雑誌	タイトル	(新規継続) 60	3,688
地図	枚	5	54,123
マイクロフィルム	本	266	87,264
マイクロフィッシュ	枚	0	48,406
ビデオテープ	本	1	446
電子記録媒体	枚	443	5,489

3. 資料整理

2012年度は合計15,598冊(点)の整理を実施した。主な内訳は、和洋書8,198冊、中国語1,878冊、韓国語447冊、その他のアジア諸言語資料1,532冊(多い順にインドネシ

ア語、ペルシア語、タイ語、アラビア語、マレー語、ベトナム語、クメール語、トルコ語、ジャワ語、タガログ語、ラオ語等)、年刊資料 3,105 冊、CD-ROM 等の AV 資料 438 点であった。作成した目録データは、研究所の蔵書目録データベースへ登録すると同時に、国立情報学研究所 (NII) のオンライン総合目録データベース (NACSIS-CAT) へも登録した。特に、NACSIS-CAT への新規目録登録数は 5,416 点で、全参加館 (1,355 館) 中、第 12 位であった。これは、研究所図書館の迅速な整理と、他機関にない貴重な資料を多数所蔵していることを示すものである。

4. 利用者サービス

(1) 閲覧

2012 年度の研究所図書館の閲覧者数は 5,086 人で、2011 年度と比べ 274 人減少した。職業別に見ると、大学関係 42.5%、民間企業関係 14.4%、その他 43.0%となっている。閲覧者に占める入館カード使用者の割合は 51.6%であり、来館利用者の約半数がリピーターで占められている。2012 年度の貸出冊数と来館者の閲覧利用冊数を合計した図書館資料の利用冊数は 33,093 冊、資料複写受付枚数は 118,506 枚であった (表 V-3)。

表 V-3 閲覧利用状況

	2011 年度	2012 年度
①外部閲覧者数	5,360 人	5,086 人
うち土曜日分	593 人	443 人
②蔵書貸出冊数	10,486 冊	9,754 冊
うち機構内	8,750 冊	7,998 冊
うち機構外	1,736 冊	1,756 冊
③資料利用冊数	34,449 冊	33,093 冊
④資料複写枚数	151,961 枚	118,506 枚
うち郵送依頼分	12,149 枚	12,679 枚

(2) 見学対応

研究所図書館見学は 55 件、386 人 (国内 254 人、国外 132 人) で、2011 年度より減少となった。

5. 利用者アンケートの実施

図書館では毎年、外部利用者及び職員の満足度を調査し、資料サービスの向上のために役立っている。2012 年度のアンケート結果は次のとおりであった。

- (1) 外部利用者アンケート (2012 年 11 月 7 日～12 月 26 日実施)

配布総数：383 通、回収数：341 通、回収率：89.0%

総合役立ち度（役立ち度上位 2 位の割合）：99.0%

(2) 職員アンケート（2013 年 2 月 1 日～3 月 29 日実施）

配布総数：186 通、回収数：34 通、回収率：18.3%

総合役立ち度（同上）：100%

6. 資料・情報相談

開発途上国の経済、政治、社会などに関する具体的な事情又は資料について各方面から寄せられる照会に対しては、所内の研究者の協力を得ながら、主に資料整理課が回答を行っている。2012 年度の主な照会・相談件数は表 V-4 のとおりである。

表 V-4 2012 年度主要照会相談件数

地域 対象主題	開 発 途 上 国 全 般	ア ジ ア 全 般	東 ア ジ ア	東 南 ア ジ ア	南 ア ジ ア	中 央 ア ジ ア	中 東	ラ テ ン ア メ リ カ	ア フ リ カ	オ セ ア ニ ア	そ の 他	照 会 事 項 合 計
政治		1	17	20	2	2	9	27	37	1		116
社会	2	1	3	11	2	1	3	9	10			42
経済	1	3	26	80	11		3	22	22			168
法律		2	4	10	3				1			20
労働	1	4	3	10	8		1	1	3			31
人口	1		5	7			1	2	1			17
金融・投資	1	1	4	13	2			2	2		2	27
財政	1		1	2	1				3			8
援助	1	1		4					7		1	14
貿易・通信・運輸	3	1	9	8	2				5			28
商業・流通・サービス	1		6	12					1			20
環境	1	2	4	8	2							17
資源・エネルギー	1		4	11	2			3	5		1	27
農林・漁業		2	2	12				3	5			24
工業・技術		3	9	7	5				2			26
企業	1		6	12	2			1	1			23
教育		2	4	6	1			1	4		1	19
地理			3	1			1		1			6
一般・その他	9	17	13	16	3		2	16	30		7	113
利用・蔵書案内											320	320
合計	24	40	123	250	46	3	20	87	140	1	332	1,066

7. 新着アラートサービス

新着アラートサービス（利用者に対して希望する特定地域・分野に関する新着図書・雑誌論文の書誌情報を E メールで無料配信するサービス）の登録者数は、2013 年 3 月末で 1,282 人となり、2012 年 3 月末に対して 31 人の増加となった。

8. 資料展示会・講演会

研究所図書館の利用促進をはかるため、千代田区立図書館と連携し、資料展「新興国の今を知る－ニュースの深層を読み解くために」を開催するとともに、併せて 2 回の講演会を実施した。また、2013 年 6 月に開催される第 5 回アフリカ開発会議（TICAD V）に向けて、東京大学駒場図書館と連携し、資料展「アフリカの社会・経済開発と平和構築－TICAD V に向けて」を開催した。さらに、本部ビジネスライブラリー内のアジ研サテライトにおいて、ビジネスマン等に関心があると思われる新興諸国等を選び、小規模な資料展示を 7 回開催し、蔵書の PR に努めた。

9. 研究支援

図書館間相互貸出サービスとして、職員からの依頼により、外部図書館から 514 冊の資料を借り受け、360 件の論文等の複写取り寄せを行った。図書館の各種サービス及びデータベースの利用方法のための情報リテラシー研修会を全職員、研究所新入職員、IDEAS の日本人研修生及び外国人研修生、客員研究員を対象としてそれぞれ実施した。

10. デジタルアーカイブ

AIDE（アジア経済研究所デジタルアーカイブ）及び ARRIDE（学術機関リポジトリ）の登録数は、表 V-5 のとおりである。特に、AIDE については遡及入力を実施し、『アジア経済』（2001～2008 年）、『アジ研ワールド・トレンド』（2005～2008 年）、『現代の中東』（2001～2008 年）、『アフリカレポート』（1985～2008 年）、『ラテンアメリカレポート』（2002～2008 年）の 5 誌 209 冊（2,714 件）を追加した。

表 V-5 2012 年度デジタルアーカイブ登録数

データベース	種 類	2012 年度		累 計	
		冊数	PDF 数	冊数	PDF 数
AIDE	図書	26	273	749	6,777
	雑誌	230	3,121	315	4,247
	合計	256	3,394	1,064	11,024
ARRIDE	論文	—	78	—	953

デジタルアーカイブのアクセス数は 2,475,011 ページで、2011 年度比では 6.7% の増加となった。また、ダウンロード数は 1,743,144 件で 2011 年度比 199% 増と大幅に増大した。

1 1. 書誌活動

2012年度の雑誌記事索引採録件数は、16,515件（表V-6）で、2011年度実績（14,601件）と比べ1,914件増加した。研究所図書館の新着資料について、受入図書リスト及び雑誌記事索引を毎月継続的にウェブサイトにて公開した。

表 V-6 2012 年度雑誌記事索引採録数

言語 種別	英語	日本語	中国語	韓国語	スペイン 語	ポルト ガル語	フランス 語	アラビア 語	インドネ シア語	合計
採録 件数	7,119	2,852	5,021	366	465	144	209	231	108	16,515

1 2. 資料の保存

2012年度は経年劣化や地震等で落下破損した図書のうち200冊を利用者の閲覧に供することができるよう補修及び再製本を行った。

1 3. 図書館間協力

(1) 関係機関との協力・連携

図書館間協力・交流の推進のため、専門図書館協議会、アジア情報関係機関懇談会（国立国会図書館主催）、千葉市図書館情報ネットワーク協議会、法律図書館連絡会などの活動に参加するとともに、新たに神田外語大学図書館と相互個人貸出制度の覚書を結び、サービスの拡充を行った。また、京都大学東南アジア研究所の共同研究「東南アジア逐次刊行物に関する情報の発信研究会」へ研究協力者として参加し、『東南アジア逐次刊行物の現在－収集・活用のためのガイドブック』（東南アジア逐次刊行物プロジェクト編）の刊行に貢献した。

(2) 図書館間相互貸借・複写（ILL）

国立情報学研究所 NACSIS-ILL システム、専門図書館協議会参加館間等の貸借を合わせた貸出受付点数は1,175冊、複写受付件数は1,375件となった。また、国立情報学研究所の統計情報によると、当館のNACSIS-ILLによる他機関への図書の貸出冊数は1,113冊で、加盟している1,563館中第5位と、2011年度の1,580館中第10位に比し貢献度が非常に高かった。

(3) レファレンス協同データベース

国立国会図書館の「レファレンス協同データベース」に引き続き参加した。研究所図書館は、2012年度に99件のレファレンスデータを登録する一方、提供したレファレンスデータについては49,753件が参照され、それらの貢献度が評価され礼状を受けた。

14. 資料・情報委員会

資料・情報委員会では、情報発信分科会、電子図書館分科会、施設改善委員会の3分科会を設けて活動した。

(1) 情報発信分科会

『アジ研ワールド・トレンド』2013年3月号掲載の図書館特集「災害と図書館」の企画・立案を行った。また、石井一郎氏から寄贈された資料（インド藩王国関連）の蔵書選定に際し、外部研究者を招き今後の整理方針を検討した。

(2) 電子図書館分科会

ウェブサイトのコンテンツの拡充とユーザビリティの改善について検討を行い、新コーナーとして「参考図書リスト・紹介」、「新興地域の統計事情」、「尾崎三雄アフガニスタン資料コレクション」等を公開した。

(3) 施設改善委員会

図書館利用者アンケートで寄せられた「書架の配置がわかりにくい」というご意見に対応するため、図書館施設内のフロアマップと各種書架サインの拡充を行った。その結果、2012年度外部利用者アンケート（11月7日～12月26日実施）で、図書館施設・サインに対する利用者満足度（上位2位）が92.5%と、前年度比で4.6ポイント増加した。

15. 市場化テスト

2011年度に実施された「アジア経済研究所図書館運営業務官民競争入札」は、アジア経済研究所図書館が落札し、第2回市場化テスト（2012年度～2014年度）においても引き続きアジア経済研究所図書館が自ら運営することになった。

初年度にあたる2012年度は、数値目標（図書配架冊数12,000点以上、雑誌記事索引採録件数12,000件以上など）や配架日数や納期（各種資料の配架までの日数、雑誌記事索引の採録から配架までの日数、ILLへの迅速な対応など）をほぼ達成することができ、順調に業務を実施した。